



畦の盛り方

粘質土と砂質土を交互に盛っている様子が分かりました。



畦の中に埋め込まれた小枝

粘質土中に小枝をあえて入れ込んでいる様子を確認できました。

## 中層の遺構

上層の調査終了後、地面を掘り下げていったところ、土器がまとまって出土する地層を発見しました。現在の住宅地に近い標高の高い範囲のみでの出土で、周囲では溝などの遺構も検出しました。遺構が検出されなかった範囲には土石流が流れた跡が存在することから、それに壊された可能性があります。



中層の完掘写真

調査範囲のうち、黄色の矢印で示した範囲が土石流災害を被った範囲です。中層のほとんどが土石流によって地面が削り取られた様子が分かります。



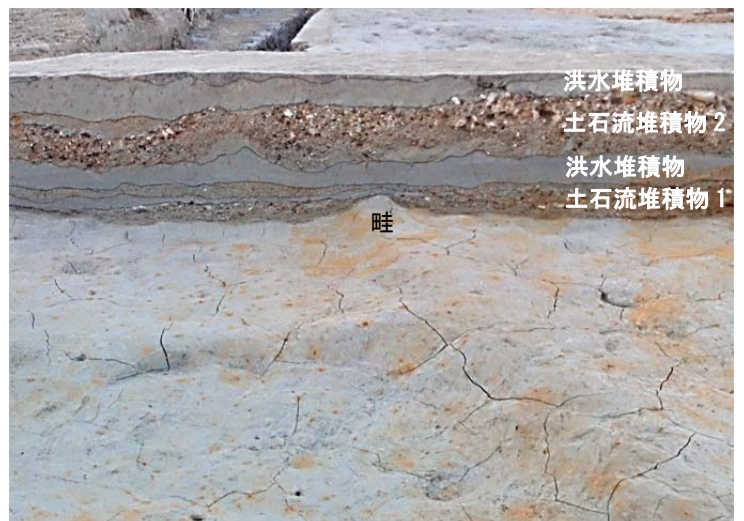
中層から出土した土器

煮炊きに使った鍋<sup>なべ</sup>が出土しました。外面には火があたった時についたススが見られます。1個体がつぶれた状態と見られます。

## 下層の水田

現地表下約 4mの深さから古墳時代中期の水田を検出しました。土石流によって流されてきた砂利に覆われていたため、それを取り除くと、当時の水田が姿を現しました。畦<sup>あぜ</sup>の高さは数cm~5cmほどと低いものの、みな同じ方向を向いており、1辺 2.5 mほどの小さな区画が整然と築かれていました。

水田の区画は、当時の地形に沿うように設計されたようです。上の水田から下の水田へと水を落とすような構造とみられ、畦<sup>あぜ</sup>の一部が途切れて、水が流れた痕と思われる窪地も認められました。古墳時代の水田は、県内でも発見例が少なく、貴重な資料といえます。



土石流に覆われた畦